

# 『うんこはごちそう』

## ワークショップ

「ウンコはゴミじゃない！素晴らしいご馳走なんだ！」

『くう・ねる・のぐそ』著者、究極のエコライフスタイルを愉しむ

**伊沢正名** (いざわまさな) **さん**の講演会を開催します。

**11月8日(土) 9日(日)**

**ゲストハウスシャントイクティ**

〒399-8602 長野県北安曇郡池田町会染 552-1

TEL&FAX 0261-62-0638 <http://www.ultraman.gr.jp/shantikuthi/>

信濃松川駅より10分 安曇野IC30分池田5丁目右折 大峰高原方面1キロ道なり

参加費 **1泊2日ワークショップ 宿泊食事付き 11000円**

**講演会のみ 11月8日14:00~16:00 1000円**

申し込み <https://ssl.form-mailer.jp/fms/6bd6e4a9231102> 申し込みホームに ご記入ください。

TEL&FAX 0261-62-0638 名前 メールアドレス 郵便番号 住所 携帯番号連絡ください。

10月8日(土)

13時 信濃松川駅集合 送迎 受付

13時30分 オリエンテーション

14時~ 講演会 講義①「ウンコはご馳走」

(生態系の無限に続く命の循環の秘密は

ウンコにあった)

(約2時間) 一般公開 参加費 1000円

16時~ シャントイクティ エコツアー

パーマカルチャー 自然農など持続可能な  
仕組みを学びます。

17時~ 温泉へ

18時30分 夕食

19時30分 スライド講習

おしりで見える葉っぱ図鑑

20時 交流会 自己紹介タイム

10月9日(日)

7時 野外実習 「正しい野糞の仕方」

「マイ葉っぱを探そう」

野糞の楽しみを飛躍的に高め

自然との付き合い方を知る

8時30分 Tea time

9時 かまどでCooking

野菜収穫 野外調理

10時30 ブランチ

12時30 グループワーク

自然界の循環を考え伝える

14時30 シェアリング まとめ

15時30 終了

送迎 4:12 発 信濃松川駅

## 地球がウンチだらけにならないわけ (福音館の科学シリーズ福音館書店)

生き物はみんなウンチをします。ゾウもウサギもカラスもトカゲも、そしてあなたもわたしも……。

地球の生き物がみんなでウンチをし続けたら、地球はウンチだらけになってしまうのではないかと

本書はそんな疑問に答えます。

学校で食物連鎖、つまり食べ物を通した自然の循環は習いますが、ウンチだって大切な自然の役割を担って循環しているんです。

くさい、きたないといわれて遠ざけられがちなウンチですが、自然界ではとっても役に立っているということを知れば、明日から新たな気持ちでウンチと接することができます。

ところで 私たちのウンチは役に立っているのでしょうか。

そんな疑問に明快に答えてくれる人がいます。

## くう・ねる・のぐそ —自然に「愛」のお返しを 山と溪谷社

[伊沢さんHP] <http://nogusophia.com/>

伊沢 正名 (いざわ まさな、1950年 - ) は、茨城県生まれの元写真家。キノコ、コケ、変形菌、カビ等の、いわゆる隠花植物の撮影を専門に行ってきた。

意識的野糞を始めて40年 糞土師(ふんどし)として、今年7月16日に途絶えるまで連続野糞記録を4793日を樹立、のべ12400回以上の記録は、現在更新中。

一見、奇行とも思えるその行為の背景には、食べることばかり関心をもち、排泄物には興味を持たない、表層的なエコロジーブームへの強烈なアンチテーゼがあった。

雨の日も風の日も、田舎でも都会でも、はては「明日のウンコを今日出す」秘技をもって長時間の飛行機での移動にも耐え、自分のウンコをすべて土に返すという信念に殉じ、伊沢は野糞を続ける。

なぜ、著者がライフワークとして野糞を企図するに至ったか？ 迫り来る抱腹絶倒の試練。ついにたどりついた世界初！ウンコ掘り返し調査の全貌と、世界でもっとも本気にウンコとつきあっている男のライフヒストリーを通して、ポスト・エコロジー時代への強烈な問題提起となる記念碑的奇書。

内容 (「BOOK」データベースより)

野糞をはじめて35年。日本全国津々浦々、果ては南米、ニュージーランドまで、命の危険も顧みず、自らのウンコを10000回以上、大地に埋め込んできた。なぜそこまでして、彼は野糞にこだわるのか。

著者略歴 (「BOOK 著者紹介情報」より)

伊沢正名 (いざわ まさな、)

1950年、茨城県に生まれる。中学、高校と進むうちにしだいに人間不信に陥り、高校中退。1970年より自然保護運動をはじめ、1975年から独学でキノコ写真家の道を歩む。以後、キノコ、コケ、変形菌、カビなどを精力的に撮り続け、長時間露光の独自の技術で、日陰の生きものたちの美を表現してきた。同時に1974年より野糞をはじめ、1990年には伊沢流インド式野糞法を確立。2003年には1000日続けて野糞をする千日行を成就。2007年、「野糞跡掘り返し調査」を敢行し、それまで誰も見ようとしなかった、ウンコが土に還るまでの過程を生々しく記録した

主な著書 共著書

『キノコの世界』(あかね書房 1977年)

『日本のきのこ』(山と溪谷社 1988年)

『日本の野生植物 コケ』(平凡社 2001年)

『キノコ博士入門』(全国農村教育協会 2006年)

『くう・ねる・のぐそ 自然に「愛」のお返しを』(山と溪谷社 2008年)

『カビ図鑑』(全国農村教育協会 2010年) 『変形菌づかん』(平凡社 2013年)

『うんこはごちそう』山口 マオ(イラスト)(農山漁村文化協会 2013年)